

〔翻 訳〕

『スペクテイター』(18)

——第166号から第175号——

門 田 俊 夫

第166号 1711年9月10日(月曜日)

【アディソン】

さて、いまこそわたしは、ユピテルの怒りも火も剣も貪婪な
時間の歯牙をもってしても滅ぼすことのできない作品を仕上げた。

(オウィディウス)¹⁾

アリストテレスによると、この世界は神の心に宿る考えの写しであり、同時に人の心に宿る考えがこの世界の写しだということです。これに、言葉は人の心に宿る考えの写しであり、著述つまり活字は言葉の写しだと付け加えることができます。

神の考えが、天地創造に刻印されたように、人は自らの考えを書物の形にします。書物は、先だっの素晴らしい発明のお陰で、この世が続く、そうです、自然界そのものが滅びない限り消失することはないのです。例えば、カウリーは宇宙の崩壊についてうたった「復活」という詩の中で、つぎのようなあっぱれな詩句を残しています。

果てしなく広がる天空も、調和に満ちた天国も、
神聖なるウェルギリウスの作品も滅んでしまう。²⁾

肉体が通俗なことにかかわりを持ち、精神が精神世界に引きこもっている場合には、人の心に去来する考えを固定させ、後世に伝える、つまり、私たちの考えに永続性を付与し、それを保存しておく方法は書物以外にはありません。書物は偉大なる天才が人類に残した遺産であり、まだ生まれていない子孫への贈物として、代々引き継がれていくもののなのです。

私たちの考えを不朽不滅なものにしようとする他の芸術はすべて、短命です。彫像は持ちこたえたとしてもせいぜい二、三千年であり、建築物はそれよりも短命で、色彩に関しては建築物よりもさらに短命です。ミケランジェロもフォンタナもラファエロも、将来は、今日のフェイディ阿斯やウィトルウィウスやアペレスと同じ運命を辿ることでしょう。こういった偉大な彫刻家や

1) オウィディウス (43B. C.-? A. D. 17) 『変身物語』15.871-2.

2) エドモンド・ウォラー (1606-87) (編) 『詩集』「復活」

建築家や画家の作品は今となっては残っていないのです。³⁾芸術には材料をかたどって表現するものがありますが、これは自然の力によって、そこに印された考えを維持できなくなります。

著述家が他の偉大な巨匠よりも強みをもつのは、原作を沢山作ることができる点にあります。つまり、原作と同じ価値を持つ写しを好きな部数だけ複写できる点にあるのです。これによって、偉大な著述家は自分の作品が永久不滅になるといった展望を持ちますが、同時に、芸術家が享受する利点は奪われてしまいます。著述家は見返りを名声に見出しますが、芸術家はそれを収益に見出すのです。ウェルギリウスやホメロスやキケロやアリストテレスたちの作品が持つ計り知れない値打ちは、彫像や建築物や絵画と違って一ヶ所に閉じ込められたり、たった一人の所有物となったりはしません。

このように、著述が永続性を持ち、時代の荒波を超えて継承されていくとしたら、著述家は活字にするときには細心の注意を払うべきです。子孫を墮落させ、悪徳や誤った考えを抱かせるようなことをしてはなりません。不死を宣伝したり、不道德な感情を機知とユーモアで鍛え上げたりすることに才能を駆使する著述家は、社会の悪疫であり人類の敵と見なされます。こういった著述家は（人類に悪意を繁殖させるカタル性疾患で亡くなると言われていますが）伝染病を撒き散らし、子孫を滅ぼすために書物を残すのです。彼らは孔子やソクラテスの対極にあるのであって、人間性を墮落させ、同胞を次第に野蛮な状態に追いやるためにこの世に送り込まれたように思われます。

ローマ・カトリックを信奉する幾人かの著述家が、不道德な著述家は彼らの著述が子孫に影響を及ぼし続ける限り、彼ら自身煉獄を味わい続けるのだと言っているのを讀んだことがあります。ローマ・カトリックを信奉する者によると、煉獄は魂を浄化する以外のなにものでもなく、人類に影響を及ぼし、墮落させ続ける限り、その状態から逃れることはできないという訳なのです。さらにまた、不道德な著述家は死後も罪を重ねるのであって、罪を重ねている限り、罰を与えられることになるということなのです。煉獄に対するローマ・カトリックの考えは実に滑稽ですが、もし死後の魂が現世で通用する知識を少しでも備えているとしたら、不道德な著述家の魂は、現世に残っている賞賛者を喜ばせているのだといった満足感よりも、墮落させているのだといった感覚から生じる悔恨の情に駆られるのだと考えざるを得ません。

以上の厳しい思索の気を紛らわすために、本日の紙面はある不敬な著述家のお話で締めくくりたいと考えます。⁴⁾この著述家は、危篤状態に陥ったとき、知り合いの牧師補の力添えを希望し、悔恨の情に駆られて、自らの著述によって人々を誘惑したのだという感覚が心に重くのしかかっ

3) フォンタナ (1512-97) はポーニャの画家。フェイディアスはパルテノンを造営した紀元前5世紀のアテナイの彫刻家。ウィトルウィウスは紀元前1世紀のローマの建築家。アペレスは紀元前4世紀のギリシアの画家。

4) ニコルズによると、この著者はトランド氏だということである。タトラー紙第3号では、「不信心者」は、理神論者であり無神論者であるだけでなく自由思想家だと見なされている。

ており、これは死後も続きそうだ、と打ち明けたのです。告解が続き、悔悛者が絶望に駆られて極度に苦しんでいると見て取り、自分も学識があった牧師補は、自分の罪がよく分かっておりこれほど真摯に悔んでいるのだから、懸念なさっておられるほどひどくはありません、と言って聞かせました。にもかかわらず、この悔悛者はあらゆる信仰をくつがえすのだという彼の邪悪な意図に固執しました。肉体が灰になっても、その著述が害毒を流し続ける者には希望が入り込める余地はありませんでした。彼を慰める手だてはないと分かった牧師補は、邪悪な意図で著作を発表することに対しては苦しみという当然の報いを受けることになる、だが、あなたの著作には危害を加える危険性がないことに感謝すべきだと告げました。つまり、彼の主張の根拠は大層ずさんなものであり、悪影響を及ぼす恐れはなかったのです。要するに、彼の著作は死後には、生存中ほど害毒を流す心配をする必要はなかったのです。牧師補がさらに満足したことには、わざわざ彼の書物を読むものは、限られた彼の友人や知人だけであり、死後も読むような人はほかにはいないということでした。瀕死のこの男には、それでも、著述家の持つ弱点がありました。そこでこういった慰めに心を動かされたのです。彼は善良な牧師補には何も応えず、周りにいる友人たちに向かって、(病人には気難しさがつき物なのですが) こんな馬鹿者を一体どこで見つけだしてきたのかと尋ねました。さらにまた、君たちはこの馬鹿者がこんな状態の私に相応しい人物とでも思っているのかと尋ねるのです。この著述家が真の真摯な悔悛者としてではなく、尊大な悔悛者として扱われたがっているのが分かった牧師補は、簡単な説諭をして、病状が悪化したら使いを寄越して下さいと言って退出しました。しかしながら、この著述家は回復し、その後さらに同じような意図の小冊子を二、三冊出して、哀れな魂にとってはきわめて幸運なことに、好評を博したのです。

第167号 1711年9月11日(火曜日)

【スティーラー】

言い伝えによると、かつてアルゴスに、人っ子一人いない劇場で、
着飾った役者たちが登場する手の込んだ舞台の芝居を観ながら、
拍手し微笑む自分の姿を絶えず夢想する紳士がいたということです。
このとき以外は、彼は素面であり、近所付き合いもあり、
信頼できる友人もいたのです。
妻には優しく、奴隷にも寛大でした。また、口の開いた樽があっても
くずれることはありませんでした。
囲いのない井戸や危険な落とし穴は避け、申し分がなく、
気がおかしいとは思えませんでした。
思いやりのある友人たちが心配して医者にかからせ、
彼の病を治療させたのです。

すると、彼は「みなさん、私はもう駄目だ。君たちが私を滅ぼしてしまった。私の楽しみはなくなってしまった。君たちは私を助けようとしたのだろうが、その逆だよ。私は人が持てる最大の楽しみである気を紛らわすことが、できなくなってしまったのだ。」と叫んだということです。(ホラティウス)¹⁾

思慮分別に導かれない空想がもたらす不幸な結果については、以前にも取り上げたことがあります。²⁾我が読者は、(平凡な事柄でも自分に差し向けられると)単純な話をにぎやかにするために、必ず事の詳細を二言三言添えなくては気が治まらない不幸な紳士の苦情を思い出していただけることと思います。この紳士は気性が激しすぎるため、ありのままでは満足できず、自分が気に入るように出来事を作り替えてしまう人物だったのです。この紳士の場合は、抑えのきかない空想力のために、本人の意向を無視して、人前で札付きの嘘をつかせることになったのですが、つぎの手紙の書き主の場合は、これと同じ空想力のために、人目につかないところで嘘をつかしていることになります。一方はおしゃべり、他方は寡黙な嘘つきという訳です。

両者の過ちには追求すべき点はほとんどありませんが、これは単なる気晴らしとして紹介する次第です。始終信念を押付け、嘘を新たな捏造で擁護する人物の愚行よりも、空想によって静かで途切れることのない遠方の場面に自分の身を置く人物の愚行の方がはるかに好ましいものです。早速、自称「空想家」³⁾のこの嘘つき氏に、独白の形で、かつての紳士と同様に、厚かましく己を語ってもらうことにします。この話題を真剣に捉えますと、つぎの手紙は、この世のあらゆることをお手本にして、関心を寄せ、自分は実は空想家だと思っている人たちにとって、非常に大切な助言を提供することになると考えられます。名声、栄誉、富、名誉といったものは、それが手に入るとなると心地よい錯覚をもたらすものですが、実際にこのいずれかを獲得することになった人物は、それが幸福への二義的な要素でしかないことに気づきます。そしてまた、これに一義的な価値を置きますと、つぎの手紙に伺えるように、まぼろしとなって消えてしまうことに気が付きます。

1711年9月6日

拝啓

この手紙をお読みいただければ分かりますように、小生はきわめて風変わりな気分の持ち主であり、自分のことを貴紙に採り上げていただくに値する愚か者だと考えています。不幸にして小生の「建築」は度を過ぎており、まさしく正確に空想家と命名されている人種の一人なのです。空想家は現実的なことに「基礎」を置くことを潔しとせず、素材を求めて大地の内部にまで掘り

1) ホラティウス (65-8B. C.) 『書簡詩』 2.2.128-40.

2) 第136号参照。

3) OED における a castle-builder (空想家) の初出。

進んでいきます。そして、「建造物」を最も不安定な元素である空中に建設するのです。図面を引き、広さを決め、設計図を完成させるのはもっぱら空想力のなせるわざなのです。これまでどれだけの堂々たる宮殿や柱廊が小生の構想力で生まれたか、どれだけの緑に覆われた牧場や日陰を提供する木立ちが強力な空想力によって生まれたか枚挙にいとまがありません。空想家というのは、まさに何でも意のままに変身させてしまいます。そういう訳で、小生は架空の笏を手にし、玉座から恭順の意を表明している被征服民に有無を言わせぬ布告を發布したのです。小生はフランスに数知れないほどの侵略を繰り返し、まさにフランス王国の心臓部にまで食い込んだのです。ルーヴルで食事をし、ヴェルサイユでシャンパンを飲みました。貴殿に知っておいていただきたいのですが、小生はすでに十分脅え、敗走に慣れている連中を打ち負かすことができるだけではなく、小生がプロテスタントではなく、同胞に遭遇していたなら、ちょうどアルマンザーのごとく、⁴⁾イギリスの将軍をも駆り立てることができたのです。小生には特別な技芸もなく専門的な職業にも就いてはいません。そこで、当然その道の大家をしのいではいません。健全なときにはどこにいても、熱狂に駆られることもなく、悪寒に襲われることもありません。雄弁の発作が起ると、適切な身振りやしかるべき抑揚が身につく、文章ひとつひとつに活力がみなぎってきます。見つめている人たちにしてみますと、熱情が煽られて猛威を振るい、また和らいで静かになっていく様子が伺えます。小生は背が低く、見栄えはよくありませんが、美しい女性を前にすると、背丈も伸びて、自信たっぷりに彼女たちを魅了します。以上は、覚醒している小生の目の前で繰り広げられ、白昼夢となる陽気な妄想です。空想という画法から生まれるこの空想上の幸福が、こんなにはかなく移ろいやすいものでなければ、小生は最高に満ち足りた幸せ者になります。ところが残念なことに、深い悲しみに包まれてお知らせしなくてはなりません、風がほんのひと吹きするだけで、たちまち壮大な殿堂も木立ちも粉々になってしまい、それまであったのが信じられないくらいに、痕跡一つ残さず消えてしまうのです。ノックの音ひとつで、財力は陰を見せ、底を突いてしまいます。友人の会釈ひとつで、我が全土は消え失せるのです。そして、袖を引かれるその瞬間に、王冠は頭上から落ちてしまいます。こういった夢想がもたらす悪影響は思いもよらぬほど甚大です。想像上の財産が無くなってしまったのだと分かったら、心から悲しくなってしまうのです。その上、隠れた大邸宅を施工した者の経済状態は明らかにゆゆしいものとなります。我が東洋風の宮殿が太陽の光を受けてきらびやかに輝いているそのときでも、店子から家が荒廃していると喧伝されると、小生は意気消沈してしまうのです。さらに、建築するときの憂いに沈んだ骨の折れる作業や絶えず実態のないコテを握り締めていることで、気持ちは混乱し、くじかれてしまいます。バベルの塔の建造者は、しばしば、支離滅裂で混乱した雑多な思いつきに苦しめられる訳です。空想がもたらすこういった悪弊からわが身を救ってもらうためには、貴殿以外には相応しい方はいないものと考えています。何卒、頭を冷やす、つまり、冷静に対処で

4) アルマンザーはジョン・ドライデン『グラナダ征服』の登場人物。

きる方法をご教示いただきたいものと思います。空想家に関する論文は、小生だけでなく、薄弱な元素に技を発揮するすべての建築家に有益です。小生のたつてのお願いに応じていただけますと、つぎの独白では自分のことではなく、観察者殿への賞賛の気持ちを述べさせていただきます。くれぐれもよろしくお願いいたします。

敬具

ウィトルウィウス⁵⁾

第168号 1711年9月12日（水曜日）

【スティール】

自分に都合のよい指針を基にして、彼は態度を決定する。（ホラティウス）¹⁾

寄稿者からの申し入れを無視して、本紙への非難を一切掲載しないととなると、傲慢だと受け止められることは間違いありません。そこで、本日の紙面は、私の考えは控え、全面的に寄稿者からの助言を掲載することにします。

拝啓

この手紙は、貴殿の先だつてのテーマ設定が好評を博していることに対して祝意を表明するためのものです。つまり、例の世間で認められている圧制者の教師のことを言っているのです。²⁾ 貴殿の力で彼らから鞭を取り上げることができれば、現在7歳から17歳のグレート・ブリテンすべての若者から感謝されることは確実です。貴殿は、この点では並外れて賢明なクウィンティリアヌスと同じ意見だと自慢できるかも知れません。「もし叱責しても過ちを認めないような不実な子供がいたら、その子は、最もたちの悪い奴隷と同様に、打たれても感じないだろう。そして打たれた後で、恥ずかしいが、あの意地悪な連中はけしからないうに体罰というものを濫用しているのだ、と言うのだ。」と彼は述べているのです。³⁾

私自身も由緒ある学校で教育を受けました。⁴⁾ 校長先生はウェルシュマンという方でした。この先生は名前もさることながら気質からいってもきっとスペイン系だったのでしょう。スペイン人に接ぎ木されたウェルシュマンという先生がどんな校長先生だったかは貴殿のご想像に委ねます。とにかくとても怖い先生でしたので、圧制を引かれた当時からすでに20年以上経過しましたが、今でも少なくとも月に一回はこの先生のことが夢に出て来ます。それぐらい強烈な印象を残した

5) ウィトルウィウスは紀元前1世紀のローマの建築家。建築に関する論文を数多く残した。

1) ホラティウス『書簡詩』2.1.128.

2) 体罰に関しては、第157号参照。

3) クウィンティリアヌス『弁論術教程』1.3.14, 17. クウィンティリアヌスは1世紀のローマの雄弁家。

4) ニコルズによると、この学校はイートンで、先生は後にケンブリッジ、キングズ・コレッジの学長となったチャールズ・ロドリック博士だということである。

先生なのです。この先生は今も睡眠中に出没するくらい、私をたっぷり脅かしたという訳です。

だが、自惚れで言うものではありませんが、私は、勉強は楽にこなしました。また、学校にはそれほど不満も持っていませんでした。でも先生がとても厳格でしたので、私は、もっと多い場合もありましたが、月に一度、国法によって軽窃盗罪の刑を受けるくらいの罰を受けたのです。

優しい母が何度となくキスをしてくれた白くて柔らかな手が、血に染まるくらい鞭打たれました。おそらく、私が笑っていたり、校門からほんの少し出たり、AとOの綴りを間違えて書いたのでしょう。こういったことが私の重大な落ち度だったのです。これで勇敢で気高い心がくじかれた者も多くいましたし、学校から逃げ出し、その後消息の知れなくなった者もありました。

悲嘆に暮れた若者の原因究明に着手するのは立派な試みであり、夥しい数になる武装した先生を提訴するのは、崇高な義侠的行為と言えます。気の毒なことに、振舞いも教授法も上品な先生たちもいました。こういった先生は生徒の親にお世辞を言ったり、親を怖がったりしない状態にしておいてあげるべきです。そうすれば、勉強は楽しみとなり、子供たちは厳しすぎることで忌み嫌っている勉強を喜んでするようになります。才能のない教師や勉強に向いていない生徒を排除すれば、前述の立派な先生に教わることから生まれる満足感はさらに大きなものとなるでしょう。

敬具

拝啓

1711年9月5日、リッチモンドにて⁵⁾

私は14歳ですが、昨年からある神学博士の指導を受けています。神学博士のこの先生が本校の責任者をなさっています。先生は私には愛情を込めて下さり、父とも懇意にさせていただいておりますので、私は実に楽しく勉強に打ち込むことができます。先生は気が向いたときにだけ顔を出されます、私たちが遊んでいるときには、会釈するだけでよく、遊びを中断させられることはありません。先生のことを誰もが親のように慕っています。誰に対しても厳しい言葉を投げ掛けることはありません。最大の罰は、先生から話し掛けてもらえないことなのです。この手紙は兄と一緒にしたためています。兄は私の一級上ですが、この三日間先生から声をかけてもらえていないことに胸が張り裂けんばかりの思いをしています。この手紙を活字にいただき、先生の目に留まりますと、先生が再び兄に笑いかけてくださるでしょう。これは兄が心から願っていることなのです。どうかよろしくお願いします。

敬具

5) この時のリッチモンド校の責任者は、ネイハム・テイト(1652-1715)と詩篇を韻文に直す作業をしたニコラス・ブレイディ博士であった。彼は1696年から1726年に没するまで、サリー州リッチモンドの教区牧師を務めた。

拝啓

貴殿は数種類の無礼者を別個に採り上げていらっしゃいますが、今後はセットにして扱っていただければ幸いです。人の集まりの場でよくあることですが、何人か連れ立ってやって来て、自分たちのことだけを考えて、各人が同じような調子で一斉に無礼を働き、周囲の人たちに迷惑をかけるといった輩がいます。また、誰彼かまわず周囲の人たちを犠牲にしようとして頭を寄せ集めて告げ口をする連中のことや、無味乾燥な喜びを独占し、浮かれ騒ぎ、周囲の人々のことは無視して、ばか笑いする連中のことをやり玉に挙げるときもあります。しばしば目にするのですが、こういった輩はオペラや芝居や「水劇場」⁶⁾やその他公共の場に出没します。観客の注意を出し物ではなく、自分たちに向けさせるのが彼らの仕事なのです。こういった女性三、四人の中にいわゆる伊達男が入っている場合は、無礼の度合いは最高潮に達します。⁷⁾

富裕な人々がこういった振舞いを身につけるとしたら、新作の席取りをするために、しばしばセブアンアップをしながら時間つぶしをする従者たちの影響としか考えられません。⁸⁾彼らは満席の中で、隣の上品人士たちを完全に無視してゲームに浮かれるのです。

それゆえ、人の集まる場所で品位を保つためには、つぎのようにするのが理に適っていると思えます。つまり、他人に迷惑をかける連中には、少なくとも2倍の入場料を払わせるのです。そして、良家の婦女子には、はしたない振舞いをすれば、彼女たちの品位は最も卑しい供の者以下になるのだと告げるのです。さらに、紳士には、立派なコートを羽織っている人が従者とかかわらないくらいの分別しかない場合は、そのコートはお仕着せに過ぎないのだと認識させるべきです。

敬具

拝啓

1711年9月1日 ベッドフォードシアにて

小生は世間で言う密猟者の一人で、⁹⁾時々、グレーハウンド二頭とマスチフ一頭、さらにスパニエルを一、二頭連れて狩りに行きます。そして、狩りに疲れ、野ウサギもたっぷり仕留めたら、居酒屋に行って一杯やります。貴方は改革者を気取っておられるようですので、お願いですが、犬は何頭連れて行けばよいのか、また酒は何杯までよいのか、一日に仕留める野ウサギは何匹までならよいのか、ご教示下さい。そうしていただけますと、我々遊獵家にとって大いに参考にな

6) タトラ紙第74号でも触れられ、スペクテイター紙にもしばしば広告が掲載されたウィンスタンリの考案した独創的な「水劇場」はピカデリーの南端にあり、屋根に風車がついていた。1711年4月にオープンしていた。

7) 第130号、第156号参照。

8) 新作の場合は、席の予約が出来なかったため、しばしば従者に席を取りに行かせた。

9) ラトレル、1707年3月15日参照。「昨日、獵鳥保護法が上院を通過した。この法案によると、来る5月1日以降、野ウサギ、キジ、ヤマウズラを扱う鳥肉屋は、領主による密猟ではないとのお墨付きがない場合は、5ポンドの罰金を課すとの箇条がある。」

ります。狩りのシーズンが近づいていますので、お早くお願いします。

敬具

アイザック・ヘッジディッチより

第169号 1711年9月13日(木曜日)

【アディソン】

彼は交際においてはいついかなるときでも落ち着いており、
いまだかつて仲間の気分を害することもなかった。
あらゆる気性の人に対応し、他人の裏もかかず、
独善的になることもなかった。これこそが名声を獲得し、
友人にも妬まれない方法だと思う。(テレンティウス)¹⁾

人はまさに人間性そのもののありよう次第で、数知れない苦痛と悲しみにさらされます。しかもなお、あたかも神が人生に不幸の種を播き足らなかったかのように、私たちは絶えず悲嘆の上塗りをしたり、お互いの残酷な仕打ちのせいで、なんでもない不幸をも必要以上に悪化させたりしてしまいます。普通の苦悩も隣人の妬みや悪意や裏切りあるいは不当な仕打ちによって、増大させられてしまうものです。人類全体に嵐が襲い掛かると同時に、私たちはお互いにいがみ合うことになります。

相互に同情と仁愛と慈悲を寄せ合うことで、人々が受ける災いを和らげれば、人生における悲惨さは半減することでしょう。従って、私たち全員が助長しなくてはならないものとしては、いわゆる「よい気立て」という気質に勝るものはありません。そういう訳で、本日の思索のテーマはこの気立ての良さにしたいと考えます。

気立ての良さというものは、社交にとって、機知よりも好ましいものであり、顔の表情に美しさよりも心地よいある種の雰囲気を与えます。これは美点を浮き立たせ、おぞましい弱点があってもある程度減じて、愚行や無礼も目立たなくしてくれます。

社交の場というものは、気立ての良さやそこまではいかににしてもその感じを帯びた何かがあれば維持できるものではありません。このために、人類はどちらかといえbaumうべだけの人間性を強引に捏造してきました。いわゆる「育ちが良い」がそれにあたります。というのは、育ちの良さを綿密に調べてみますと、これは気立ての良さの模倣、物真似以外の何物でもないことが分かるからなのです。言い換えると、これは感じの良さ、慇懃さ、そして落着きがわざとらしさに形を変えているに過ぎないのです。

こういった人間性の外観とか体裁は、真の気立ての良さに根差している場合には、その人を実

1) テレンティウス『アンドロスの子』62-66. テレンティウスは紀元前2世紀のローマの劇作家。

に評判の良い愛すべき人物にします。だが、そうでない場合には、これは信心における偽善つまり空虚な信心と同類となります。このことが明らかになると、その人物は不信心を装う人物よりももっと嫌悪されることになります。

一般に、私たちは気立ての良さを持って生まれます。この気質を育む大きな要因は、健康や幸福や周囲の人たちからの親切な処遇なのです。一方で、この気質は無理やり引き出すことはできません。また、勝手に育つこともありません。これは教育によって向上しますが、生み出すことはできない幸せな素質を持つ天恵のひとつなのです。

クセノフォンは、実在の王のお手本として描くのですが、彼が作り出した架空の王の伝記の中で、終始一貫して、この王の博愛つまり気立ての良さを称えています。²⁾クセノフォンによれば、この王は生まれながらにして気立てがよかったとのこと。そして、彼は、生涯においてもさることながら、子供時代の多くの顕著な例について描写しています。のみならず、この王は死の床で、魂が自分を作ってくれた神の元に帰っていき、肉体が万物の大きな母と合体し、そうすることで人類のために役立つことができると語り、満ち足りた表情をした、とクセノフォンは述べています。そこで、王は息子たちに向かって、毅然とした口調で、自分の亡骸は金銀の聖櫃に安置せずに、大地に埋葬するようにと申し渡したということです。

崇高な考えと人間に対する大きな慈愛に満ちた心の持ち主の著述家でなかったならば、このような溢れんばかりの人間性、みなぎる人間愛を示す事例は思いつかなかったに違いありません。

サルスティウスはかの名高い文章で、カエサルとカトーについて記しています。³⁾双方とも見事に描写されていますが、性格は正反対になっています。カエサルの性格は、もっぱら気立ての良さから成り立っており、味方にも敵にも、召使や従者にも、犯罪者にも困窮者にも気立ての良いところを見せます。一方、カトーの場合は、人当たりが良いというよりはむしろ畏敬の念に満ちています。神性にとっては正義、人間性にとっては慈悲がそれぞれ好ましいものであると思えます。自分に容赦する物が何もない人は、あらゆる人に働きに応じて報酬を与えることができますが、まさに最高の働きが斟酌される人は、どれほど温厚で穏健で寛大になってもなり過ぎることはありません。このため、人間性にはひどい性格はいろいろありますが、つまらない人物における厳格な気質ほど不快で、実に滑稽なものはほかにはありません。

しかしながら、他人の落ち度をゆるしたり大目に見たりする気立ての良さといったものは、その真価が十分に発揮され場合にのみ行使されるべきであって、しかも生活面における通常の際や出来事の場合に限るべきです。なぜなら、公共の場で公正さを執行するさいには、ある人への慈悲はほかの人にとっては残酷なことになりかねないからです。⁴⁾

2) クセノフォン (431-? 355B. C.) 『キロスの教育』。キロスとはペルシア王アルタクセルクセス二世の弟。王位を狙ったが失敗した。クセノフォンはギリシアの軍人であり史家。

3) サルスティウス (86-34B. C.) 『カティリナ戦記』54。スティールはこの一節を『クリスチャン・ヒーロー』第1章に引用した。

気立ての良い人が必ずしも才人であるとは限らないというのは、格言になっていると言っていると思います。だが、私はこの見方には根拠はないと思います。私が交際しています才人のみなさんは、どの方も人情味溢れる人たちばかりです。それゆえ、この見方は以下の二つの理由が引き金となったと考えています。第一の理由としては、ひねくれた性格が常人の間では機知として通用していることがそうです。威勢のいい発言は聞き手の感情を満足させますので、一般に歓迎されます。そこには笑いが生まれ、話し手は鋭い諷刺家と見なされます。これが意外なことに、非常に多くの愛すべき仲間が凡庸にみえる理由のひとつであるかも知れません。活字で人々を楽しませようとした場合には、人々は機知と意地悪の区別をするときに、私的なクラブや集いの場におけるよりも公正な判断を心掛けるからです。

気立ての良い人が時々機知を問題にされるもうひとつの理由は、おそらく、気立ての良い人は不幸とか欠点にすぐに同情してしまうからなのです。ひねくれた性格の人なら、それをからかいの対象として、機知の評判を獲得してしまいます。ひねくれた人は、気立ての良い人と資質は同じではありませんが、守備範囲を広く取ります。彼は一方が覆い隠す欠点を暴露し、一方が控える非難の言葉を口にします。彼は味方でも敵でもおかまいなく冷たく攻撃し、恩義を受けている人物でも仮面を剥いでしまいます。要するに、ひねくれた人は才人であるとの評判を確立するためには何事にも躊躇することはないのです。従って、往々にして不正な手段を用いる人の方が公正な商人より金持ちになるように、人間性溢れる人物よりも、ひねくれ者の方がうまくやるものなんら不思議ではないのです。

第170号 1711年9月14日(金曜日)

【アディソン】

愛には、侮辱、嫉妬、反目、和解、争い、そしてまた平穏
といったさまざまなことがつきまとう。(テレンティウス)¹⁾

婦人の寄稿者からの手紙を読んでいまして、自らの身の潔白を訴えながら嫉妬深い夫に対する苦情を申し立て、この機会に助言を与えて欲しいと望んでいる手紙があることに気づきました。そこで、喜んでこのテーマについて考えてみたいと思います。といいますのも、『娘への助言』の中で、不実で乱暴で、癪癪持ちで、不機嫌な、あるいは強欲で、愚かな夫への身の処し方を教示したハリファックス侯も、嫉妬深い夫のことは一言も触れていないからなのです。²⁾

嫉妬とは、ひたすら愛する相手から自分が愛するようには愛されていないのではないかという不安から覚える心痛です。ところで、私たちの内面にある感情の起伏は明確には認識できません

4) 第97号参照。

1) テレンティウス『宦官』59-61.

2) ハリファックス『娘への助言』。第37号参照。

ので、嫉妬深い人物は自らの抱く疑いを完全に晴らすことは出来ません。疑念はせいぜいあやふやで不確かな状態にとどまるのみで、いかなる場合も自分に有利な満足感を得ることは出来ません。そのため、調査しても何も出ないときの方が幸運なのです。嫉妬深い人物の喜びは失望から生まれます。そして、たまたま見つければの話ですが、人生は幸福を破壊する秘密の探求のために費やされます。

嫉妬心を引き起こすゆるぎない要因としては、必ず熱烈な愛情があがります。というのは、欲望を掻き立てられ、心の中で、愛する相手をこの上なく美しい人物に仕立ててしまう嫉妬深い人物は、彼女が他人にも自分と同じ感情を燃え立たせると信じてしまうのです。つまり、嫉妬深い人物は、愛する相手が彼女を目にするすべての人に同じように愛想を振り撒くと思い込んでしまう訳なのです。このように、嫉妬心というものは並外れた愛から生まれますので、同等の愛が返ってこない限り、それを潔しとしない非常に繊細なものなのです。心からの愛情を表現しても、この上なく優しくかつ行き届いた振りをしても、満足感を与えることは出来ません。愛情が本物であって、お互いに満足していると確信することはありません。嫉妬深い人は自分が愛する相手にとって神のような存在になりたいと願っているのです。つまり、自分が相手の唯一の喜びであり、相手にはただひとえに自分のことだけを考えていてもらいたいと考えているのです。そこで、相手が自分以外のことに関心を示すこと、つまり、喜びを見出すことにはどんなことであれ、気分を害してしまいます。

フェイドリアが三日間家を留守にするときに口にした、奥方への要請は誰にも真似の出来ないほど美しく自然なものです。

兵士と同席するときには、その男のことを深く心にかけてはならない。

絶えず私を愛し、私が欲しいと願い、私のことを夢想し、

私の帰宅のことを考え、私のことをあてにし、私に喜びの種を

見出すのです。そうすれば、私の全身全霊があなたのものであるよう

にあなたの全身全霊は私のものとなります。³⁾

嫉妬深い人の疾患はとても重いものですので、あらゆることを病の悪化を助長する要因に転換してしまいます。冷静な振舞いは、自分を苦しめ、それを忌避あるいは冷淡さのしるしと解釈します。優しい振舞いは、疑惑を募らせ、それを偽装であり手管だと考えます。愛する相手が機嫌良くしていると、別人のことを考えているに違いないと思い、ふさいでいると、きっと自分のことを考えているのだと考えます。要するに、嫉妬深い人物にとってはどんな言葉や身振りであっても、無意味なものは何一つなく、すべてが新たな暗示となり、疑惑を募らせ、探求の材料となってしまう訳です。そこで、嫉妬心の効力を考えますと、これは過度の愛情というよりは根深い憎しみから生まれるのではないかとさえ思えます。きっと、嫉妬深い夫を除けば、疑いをかけられ

3) テレンティウス『宦官』192-6.

た妻ほど不安で居心地の悪い状態に置かれる人はほかには見当たらないでしょう。

ところで、嫉妬に駆られることから生じる最大の不幸は、当然の結果なのですが、往々にして独占したいと切望している愛情を遊離させてしまうということです。つまり、相手の言動を束縛しすぎますし、相手の志操が正しくないのではないかと考えている様子を表情に出しますので、相手から忌避される大きな動機を与えてしまいます。

嫉妬の最悪の結果はこれだけにとどまりません。というのは、嫉妬はもっと致命的な一連の結果を導き、疑いをかける相手に懸念しているまさにその罪を犯させてしまうのです。ひどい扱いを受け、ゆえなく非難される者が親友を見つけ、愚痴を聞いてもらい、苦しみを悼んでもらい、内緒の憤りをなだめ鎮めてもらうのはごく当然の成り行きです。おまけに、嫉妬は婦人にそうでなければ思いつかないような嫌なことを考えさせます。要するに、彼女の頭の中では、早晚親密になり、情欲をそそられ、最初はあった恥じも体面もなくしてしまうのではないかといった不吉な予感が駆け巡ることになります。また、自分が信用されていなく、それゆえ、相手の評価では何も失うものがない場合には、相手に疑惑を抱かせる動機を与え、その後汚名を受けることになる罪を犯すことになっても、なんら不思議ではありません。おそらく、夫への助言の中で、賢明な男性に与えられる考慮すべき点はずぎのようなことになると思われます。「愛妻に嫉妬心を抱いて、自分に不利になるような邪悪な教訓を与えてはなりません。」⁴⁾

嫉妬が引き起こす苦痛はいろいろあります。たいていの場合、嫉妬心を掻き立てられた相手が去ったときの嫉妬深い男ほど、悲嘆に暮れる人物はほかには見当りません。これは、このときになって初めて、愛情が不意に猛然と吹き出し、それまで愛情を抑えつけ覆い消していた諸々の疑惑を一気にかなぐり捨ててからなのです。最初に、嫉妬深い夫の記憶に美しい部分が蘇ってきて、かつては自分の占有であったとても素敵な女性にひどい仕打ちをした自分を非難することになります。と同時に、それまであれほど気に掛けていた些細な欠陥が、徐々に夫の記憶から消え失せていき、最後にはすっかり消えてしまいます。

以上見て来ましたように、嫉妬は多情な気質を備えた男性の心の最深部に根差していることが分かります。過度の嫉妬に駆られる者には、三種類のタイプがあります。

第一のタイプは、虚弱であれ、老齢であれ、醜さであれ、無知であれ、自らのなんらかの弱点を意識している人たちがそうです。こういった人たちは自分の嫌な点を熟知していますので、自分たちが本当に愛されているのだという確信を持てません。そして、自分たちの長所を容易には信じていませんので、愛情を向けられると、当惑し、それを冗談と受け止めるのです。こういった人たちは、最初に鏡に映し出される自分たちの姿を見て、疑惑を募らせ、しわがあるのが分かったと、嫉妬心を駆り立てられます。ハンサムな男性を見ると、恐怖に陥り、若くて陽気な人物を目にすると、いの一番に妻のことを思い浮かべます。

4) 『ペン・シラの知恵』9.1.これは51章からなる旧約聖書外典中最大の文書。

嫉妬心を払拭できない第二のタイプは、巧妙で細心で疑い深い気質を備えた人たちがそうです。政治家が何事も偶然性や気分任せにせず、常にあらゆる行為の指針を、何らかの策略や計略に求め、絶えず因果関係を計算に入れて計画を立てながら、駐留地と会議場の連絡を取り合うといったことは、歴史的に証明されている彼らの欠点なのです。これは思考方法に正確さを求め過ぎる人物が恋をした場合にも起ることです。こういった人々は相手の表情を読み、微笑みに下心があると考えます。そして、言動に新たな意味を付与し、勝手に抱いた妄想に苦しみます。一般に、この手の人たちは本心を隠した形で行動します。そこで、他人の外観とか様子を偽善と誤解します。そのため、巧妙で抜け目ない考え方をする人ほど、事の真実が見えなくなるのだと思います。

ところで、淫らで不道德な人々は、上記の人々が女性については内省によって分かったと思うことを、経験によって身につけたのだと考えます。こういった人々は、哀れな夫がたくらみや手管にいと簡単に振り回され、疑惑を抱いている最中には、歪んだ陰謀に簡単に取り乱し当惑するさまを見ているので、女性の行動にはすべて下心があると疑っています。特に、二人の振舞いに何か類似点がある場合には、ついそれは二人が共謀しているのだと考えてしまいます。それゆえ、彼らは疑惑を抱いた相手に厳しく当たり、一挙一動を周到にチェックします。彼らは追求の手口を熟知していますので、偽装工作してもごまかすことは出来ません。おまけに、彼らは全神経を女性の不道德な部分に集中しますので、彼らが女性を一様に非難し、ペテン師だと見なしでも何ら不思議ではありません。ところで、彼らに個人的な経験があるにもかかわらず、偏見を克服し、ある種の女性をよく思うことができて、彼ら自身のふしだらな欲望が別の面から新たな疑惑を掻き立てることになり、男性はすべて自分たちと同じ性癖があるのだと思い込んでしまいます。

嫉妬心を抱くことになるのはどのような動機が支配的であるかは、わが国での私たち自身の体験もさることながら、アメリカの現代史をひもとけば分かります。つまり、嫉妬は北の国の感情ではなく、暑い国ほど猛威を振るうのです。⁵⁾ 熱帯地方で生まれた女性は不運です。なぜなら、嫉妬は暑い地方ほど激しく、北に移動すればするだけ、気候と連動して熱気を帯びなくなり、北極圏内ではほとんど姿を見せなくなるからです。この点に関しては、わが国は適度な位置にあります。もし嫉妬で変調を来たしている限られた人たちに遭遇したとしましたら、これらの人々はわが国で正しい育ち方をしたとは考えられず、大半は気候というよりも体質が太陽に近いのです。

以上、嫉妬および嫉妬に駆られやすい人物について耐え難いお話をしてきましたが、どうすればこれが和らげられるか、その方法を提示し、嫉妬心に憑かれている人々の気持ちを楽にしてあげるのが道理に適うでしょう。実際には他の欠点は妻の管轄外であり、出来ることなら妻の監視を免れるべきです。だが、嫉妬はこれを直すには特に妻の助けを必要とします。妻の技量と努力

5) ミエージュによれば、「暑い国々では往々にして暴行や殺人の契機となる嫉妬は、イギリスではありがたいことに、さほど支配的ではない。理由もなく嫉妬深い人物は「心気性患者」とみなされる。嫉妬深くなる根拠のある人物は不運にも不治の悪疾に罹った人物とみなされる」ということである。

ひとつにかかっているのです。妻は自分の努力が心地よいものであり、夫の疑惑が無くなっていくに連れて、夫の愛情が自分に振り向けられていくのだということを励みにします。これまで見て来ましたように、嫉妬心というものは実にさまざまな愛情が交錯した結果なのです。この複雑な感情はひとつひとつ取り出して考えてみる価値がありますが、これに関しましては別の機会に譲りたいと思います。

第171号 1711年9月15日(土曜日)

【アディソン】

愛というものはだまされやすいものだ。(オウィディウス)¹⁾

昨日の新聞では、嫉妬というものを明らかにすると同時に、それに憑かれ易い人たちのことを指摘しましたので、本日は、嫉妬深い夫とうまくやっていき、不当な疑惑を取り除いて気を楽にしてあげたいと願っている女性に焦点を当てなくてはなりません。

私が遵守してもらいたいと考えている第一のルールは、嫉妬深い夫がうしろめたいと思っていることを忌避している、あるいは、彼自身が長じていないものを称えていると誤解されないことです。嫉妬深い夫というものは、反応が非常に迅速で、非難を二用に解釈する方法を知っており、他人への賛辞から自分へのあてこすりを感じ取ります。嫉妬深い人は人間性そのものを斟酌しようとはせず、その人物の特徴にだけ目を向けます。そして、そこに自分と似通った部分が少しでもあれば、一人で喜んだり困惑したりします。他人のことを少しでも賞賛すると、つまり、自分以外の人を評価していると分かると、嫉妬心を掻き立てます。彼自身に欠けている点が賞賛されますと、つまり、何らかの点で、他人の方が自分よりも好ましいと分かると、さらに一層刺激を受けます。以上のことを踏まえた嫉妬への見方が、ホラティウスのリュディアに寄せられた頌詩に実に見事に歌われています。

血色が良くしなやかな体の若さ一杯のテーレボスの魅力を、
君が有頂天になっていつまでも朗唱し、満ち足りた様子をして
していると分かると、私の心には嫉妬心がむらむらと湧き起り、
いかんともしがたい憤りがみなぎってくる。
顔からは血の気が引き蒼ざめ、男らしさの一切が消え失せる。
それに代わって登場するのは、身を潜めていた悲嘆だ。
口をついて出るのはため息、そして、滂沱の涙。
これはひとえに君のことを心から想っている証しなのだ。
心の奥底にある何かが、寡黙で緩慢でやつれた情火を食食物にし、

1) オウィディウス『変身物語』7.826.

魂そのものも次第に消散してしまうのだ。²⁾

もし別の人が嫌いであれば、嫉妬深い夫は実際には腹を立てているわけではありません。だが、彼自身の性格に欠点を見出すと、別の人だけでなく彼自身が嫌いになっていることに気づきます。要するに、嫉妬深い夫は愛を独占しがっているために、自らに魅力が欠けていることを嘆き悲しむのです。彼はその魅力があなたの愛を高める力だと信じているのです。あなたの他人への非難から判断して、自分があなたにとって思うほど好ましくない人物であると分かると、彼は当然のように、ほかに資格があれば、もっと愛されるだろう、そして、成り行き次第では思うほど愛されないだろうと考えます。それゆえ、気質が真面目で陰気なタイプの場合は、あまり冗談を言ったり、陽気で愉快的ことに夢中になったりしてはいけません。彼にこれといった取柄がない場合は、彼が備えている思慮分別とか何か別の資質を評価している振りをするか、少なくとも彼がそうだと思う必要があります。

二つ目のルールとしては、彼と会話を交わすときには絶対に隠し立てをしないことです。行動も意図も明確にし、秘密はどんなに些細であり重要でないことであっても、それを作らないようにしなくてはなりません。嫉妬深い夫というものは、異常な程目配せや耳打ちを嫌います。何事につけ徹底的に合点しないと、必ず危惧や疑惑を抱いてしまいます。常に自分があなたから信頼されている唯一の人物でありたいと考えているのです。そこで、自分に秘密が打ち明けられていないと分かると、もっと何かがあると信じ込みます。さてこの場合、嫉妬深い夫にとって、最大の関心事はあなたが首尾一貫して誠実であるかどうかということです。なぜなら、こういった人はたったひとつの行動に一度でも偽りがあると分かると、素早くほかのあらゆることにも疑惑を持ってしまうからです。直ちに、頭の中は駆け巡り、そこに偽りを感じ取り、何か掛け離れた結果を想定してしまいます。そしてついには器用にも自らの苦痛を生み出してしまいます。

以上の二つのルールで駄目な場合、最善の方法は、彼の抱いている意地の悪い見方と彼自身が自分のために味わっている動揺に、あなたがとても気落ちし苦しんでいるのだと分らせることです。自分を愛する人の嫉妬にある種野蛮な喜びを見出す女性が多くいます。彼女たちは相手が心をうずかせているのが分かると高慢な態度で接し、これほどまでに不安を掻き立てることができる自分たちの魅力を知って大得意になります。「おそらく、彼女は同じように熱烈に愛しているが、絶対的な支配を熱望しているのだ。」³⁾ところで、こういった態度は往々にして行き過ぎとなり、最終的には冷たさと無関心さを気取ること、恋する人の愛情を消滅させてしまい、あまりにも不遜な振舞いのお陰で軽蔑と侮蔑を浴びることになります。これに反して、潔白さを汚された場合によくあることですが、物思いに沈みしよげた態度を取りますと、嫉妬深い夫の気持ちは和らぎ同情を寄せるようになり、自分の不当な仕打ちを理解し、両者を不幸にしている危惧や疑惑を払拭してしまうことがあります。少なくとも、彼が嫉妬心を表に出さず、内々でかこつよう

2) ホラティウス『頌詩』1.13.1-8.

3) ユヴェナリス (60?-?140)『諷刺』6.209.

になる好結果をもたらします。彼自身嫉妬は欠点だと気づいていますので、あなたに知られないように、その欠点を隠そうとします。また、嫉妬を表面に出せば、あなたの自分への愛がさめ、別人に向かうのではないかと危惧するようになる訳です。

信じていただけたら幸いなのですが、必ず功を奏する秘策がもうひとつあります。これは高潔というよりは老練な女性がよく使う手です。その方法とは、嫉妬深い夫としばらく立場を逆転させ、彼自身の気持ちを彼に振り向けさせ、機会を捉えて彼のことを嫉妬し、彼があなたに示したお手本にならうことです。この心にもない嫉妬は、彼がそれを本物だと思えば、とても大きな喜びを与えます。なぜなら、彼には経験的に嫉妬には並々なぬ愛が伴っていることを知っているからです。そして、彼は、あなたが彼と同じ苦しみを味わっているのを見ると、ある種意趣返しをしたときに得られる満足感のような感慨を覚えます。だが、これは実際には非常に難しい手管であると同時に、とても不誠実なやり方ですので、ごまかしを隠せるほどの技量と申し開きができるほど潔白な人以外は実行に移すべきではありません。

本日の小論は、ヨセフが書き残したヘロデとマリウムネの話でもって締めくくりたいと思います。⁴⁾本日のテーマのお手本として有用だと考えた次第です。

マリウムネは、美貌も生まれも機知も若さも、女性に与えられるあらゆる魅力を備えていました。ヘロデはこの魅力的なマリウムネを心から愛していました。その何年か後には彼女の父も同じ目にあったのですが、ヘロデは彼女を溺愛していながら、彼女の兄を殺害してしまったのです。この残忍な行為については、アントニウスのもとに陳情書が届けられました。アントニウスは直ちにヘロデをエジプトに召喚し、告発を受けた犯罪的行為について申し開きをさせました。ヘロデは自分が召喚されたのは、アントニウスがマリウムネに対して欲望を抱いているせいだと考えました。そこで、ヘロデは出立前に、叔父のヨセフに、彼女の監視を依頼して、もし自分が何か威嚇されるようなことにでもなったら、彼女を殺害するようにとの内証の命令を申し渡しておきました。ヨセフはマリウムネと話が出来ることを非常に喜び、弁舌爽やかに彼女に対するヘロデの過度の熱情を並べ立てました。だがそれでも、彼女が冷やかで自分の言うことを容易に信じないと分かると、軽率にもヨセフは、彼女にヘロデの愛情の深さの確かな一例として、自分に託された内証の命令のことを口にしたのです。ヨセフの説明によれば、ヘロデは明らかに彼女がいなければ生きること死ぬこともできないということでした。マリウムネは、この狂気じみており常軌を逸した彼の残忍な情熱の例を耳にしたことで、しばらくの間、主人に対して抱いていた愛情はすべてかき消されてしまいました。彼女の頭の中はすっかり主人の残酷な命令のことで塞がれてしまい、この命令を出すことになった優しさといったことに思いを馳せることはできなく

4) 紀元前40年から4年まで君臨したユダヤの王ヘロデ。ヘロデは誕生したイエスを排除するために、ベツレヘムの2歳以下のすべての子供を虐殺したという物語で有名。ヨセフスは『ユダヤ古代誌』などを著した1世紀のユダヤの史家。この箇所は同書の第15巻第9章と第11章。1702年、サー・ロジャー・レストレインジが翻訳し、アディソンの蔵書にも加えられた。

なり、恋しい人というよりはむしろ恐ろしい殺人者としての彼しか思い浮かばなくなりました。ヘロデはやっとアントニウスから放免されました。このときヘロデのマリアムネへの思いは我慢の限界に達していました。マリアムネの顔を見る前に、ヘロデはすでに、彼が耳にしていた留守中の叔父と彼女に親密な関係があったとの噂に大層動揺していました。そこで、彼が彼女と最初に交わした話はこのことに関することでした。この話のやりとりで、彼女は彼の疑惑を取り除くのは容易ではないと思いました。だがやっと、彼は彼女の潔白さを確信しているように見え、当初は口やかましく叱責していた彼が涙を流し抱擁するようになったのでした。二人は仲直りし、愛情に包まれ涙したのです。ヘロデは彼女への心からの変わらぬ愛を打ち明けました。一方やるせない思いをしているマリアムネは、ため息交じりに、叔父のヨセフに託した秘密の命令は燃え盛る愛情を示す一例なのですかと尋ねました。このような予測もしていなかった質問を投げ掛けられた王は瞬間に嫉妬心を掻き立てられ、こんな秘密を明かすとは、叔父はよほど彼女と親密だったに違いないと推断しました。要するに、マリアムネ殺害だけはかろうじて思いとどまりましたが、彼は叔父を殺害することになったのです。

その後、ヘロデは再びエジプトから呼び出しを受けました。今度はマリアムネの身柄をソヘムスに委ねました。彼にも、万一に備えて、前回同様の秘密の命令を申し渡しました。その間、マリアムネはソヘムスに贈物をしたりして、打ち解けた会話をしながら彼の心を引き付け、ヘロデが委ねていた秘密をすべて引き出しました。そこで、帰国後、ヘロデが喜び勇んでマリアムネのもとに駆けつけたとき、彼女はため息と涙を浮かべ、冷ややかにいかにも嫌がっている素振りを見せながら彼を出迎えたのです。この素振りに対して、彼は大層憤慨しました。そのため、自分自身が苦しみことにはならないと分かっていたら、間違いなく彼女を殺害するところでした。この件があっただけでなく、彼は再びひどいしっぺ返しを受けることになりました。マリアムネは彼の元に呼び寄せられました。彼は精一杯心を込めて愛撫し、彼女の気持ちを和らげ仲直りしようとしていました。だが、彼女は抱擁を拒み、彼の示す愛情に父と兄の死に対する辛辣な非難でもって応えました。この振舞いはヘロデを激怒させ、すんでのところ彼女を打ち据えるところでした。この喧嘩をしている最中に、マリアムネの敵方の誰かにそそのかされた証人がやって来ました。この証人は彼女には王毒殺の陰謀があると訴えたのです。ヘロデは今では彼女に対する侮蔑的言辞を聞く覚悟が出来ていました。彼は直ちに彼女の召使を拷問にかけようと命じました。拷問で追い詰められた召使は、ご主人が王様を忌避なさることになりましたのはソヘムス様がおっしゃったことが事の発端だと告白しました。でも、毒殺の陰謀に関しては全く関係ありませんときっぱり否認しました。召使の告白は直ちにソヘムスの運命を決することになりました。疑われたソヘムスは、ヨセフと同じ運命を辿り、処刑されることになったのでした。ヘロデはこれだけにとどまらず、彼女が自分の命を狙ったと激しく非難し、裁き人ヘロデの権威でもって、彼女を公然と糾弾し処刑したのです。ヘロデは彼女の死後まもなくふさぎ込み気力を無くし、公務を退き、人里離れた森に引きこもってしまいました。そして、愛、悔恨、憐憫、絶望から生じる暗澹

たる想いに耽ったのです。ヘロデは絶えずうわごとでマリムネのことを口にし、取り乱して彼女を求めるのでした。そして、当時彼自身の身に脅威を感じさせるほどになっていた国の動乱に気を逸らすことがなかったら、彼はおそらく彼女の後を追っていたに違いありません。

第172号 1711年9月17日(月曜日)

【スティール】

公正さを伴わない知識が、知恵というよりも
狡猾と呼ばれるのが当然であるように、
公の利益のためでなく、自らの熱意に
煽られて危険に立ち向かう精神は、剛勇というよりも
無謀と呼ばれてしかるべきだ。(キケロ)¹⁾

人々に付与されている優秀な才能というものは、それがどんな風に適用されているかを考慮しないで、無原則的に称えてしまいますと、人間社会に大きな害を与えることになります。天賦の才とか特技といったものは、美德のために発揮され、つまり、徳義を重んじるというルールにのって初めて光り輝くものになります。交わる人たちの美点をしっかり観察し、その気質に注目すべき点、つまり、すぐれた点を見出さない限り、その人を安易に称えるべきではありません。そうでないと、その人の美点とか機知の魔力に囚われて、理性とか分別では拒否すべきだと命じている人物を盲信してしまうことになります。

以上のように、私たちが単なる美点や単なる機知に心を奪われて、それを許容していると、悪徳まみれのオムナマンテが、まるで純潔この上なく慎み深い夫人でもあるかのように、私たちの好意を奪い去ってしまうでしょう。²⁾ この世では、私たちが軽蔑すべきだと考えていることを溺愛することほど、惨めな隷属状態はほかには見当たりません。善であり志操の正しいものを促進しないものを是認していれば、終生こういった隷属状態に置かれることになるのは間違いありません。もし私たちが心の底から、あらゆることを理性と公正の観点に立って考慮するようにしますと、たとえ若く多情な気質がみなぎっていても、その人が男たらしに出会っても、ちょうど伊達男に対するのと同じように、軽蔑あるいは無関心な目で見ることになります。女性の淫らな身のこなしは、本人は賞賛されたい一心なのでしょうが、本人の意向とは逆の結果を招いてしまいます。そして、男性の虚栄の服装や言葉は、たとえ顔立ちが整っており、思慮分別があっても、それを台無しにしてしまいます。私が思慮分別と申ししたのは、美しい女性が淫らになることがよくありますように、分別を備えた男性が伊達男になるのをよく見掛けるからです。男女を問わずこういったことになれば、その度合いに比例して、生来備わっている素質に当然付与される

1) キケロ『義務論』1.19.63.

2) オムナマンテに関しては第144号参照。

はずの好意は減じなくてはなりません。ところで、人間の価値というものは、本来、ただ単に卓越した才能を備えているという観点からではなく、その才能が何に適用されているかといった観点から測るべきです。この考えは時代を問わず正当なものなのですが、大半の人たちにはその逆の考え方が行き渡っているのです。制作するとすぐに消滅したのだが、画家や彫刻家が制作した数だけ評価されてきたとしたならば、数多くの無節操な仕掛けが時代を超えて守られてきたと言えます。このため、慎み深く抑制のきいた想像力は、生得の誠実さとか高潔な熱意とか勇氣ある信念とか思いやりに溢れた人間性とかをみなぎらせた無数の魅惑的な肖像画を見落としてきました。その代わりに彼らが気に入るのは好色な人物とか怒り狂う人物とか常軌を逸した人物などです。そしてけしからぬことに、こういった人物に永久不滅の生命を与えてしまいます。

一般に、見上げた才能というものは、上記のケースだけでなく、日常生活にかかわることでは、不当に適用されても大目に見られます。もし弁護士が自らの才能をただひとえに公正さを競うことだけに用い、不当としか思われぬことに発揮した場合には直ちに唾棄すべきものと見なされるとしたら、その人物は実にあつぱれな人物となることは間違いありません。被害者を保護したり、抑圧者を抑え込んだり、不謹慎な債務者を拘束したり、痛ましい熟練工を正当に評価することに専念する人物もまた尊敬すべき人物と言えます。ところが、こういった優れた人物の多くは総じて看過されがちです。大多数の人々は、肩書のある依頼人の弱点を隠蔽したり、取調べの道筋を脇に逸らせたり、虚偽を言いつくろう巧みな口実を見つけたりすることに腐心します。このように才能が不当なことに適用されても、雄弁に 변りはありません。また、刺客の決意も、理屈の立て方次第では、不当な申し立てを擁護するために行使される知識や知恵と同様に、賞賛に足るものとなるのです。

賞賛に足るかどうかの物差しとして、その意図をきちんと考慮に入れると、欺瞞は瞬く間に顔色をなくし、厚かましい物腰は軽蔑の対象となります。尊敬の念を口にしてしている廷臣二人も、約束を破れば、偽証罪に問われる二人の哨兵騎士と同一視されます。だが、道徳という点に関しては、会話はとても低劣ですので、売買において「買手は用心せよ」と言われますように、友情という点では、簡単に信頼してしまう危険人物となります。すなわち、こういった人物は商業において被害を蒙りやすく、義務感からすぐに協約を結んでしまう訳です。

ところで、真に偉大な人物というものは、その後の誉れを意識せずに、企てそれ自体に徳を求めるものです。こういった人物は精神を高揚させ、密かに人々に有益な事象を生み出すことに腐心し、名声の獲得に奔走することはありません。それゆえ、卓越した美点、術策とか悪口によって奪われる場合でも、敵方の努力によって、さらにその美点が強調されることになります。美点を汚したり、危害を他人に広めようとしたりする無益な骨折りは、当然、逆効果を生み出してしまいます。火がパッと燃え上がり、消すことの出来ないものを隠蔽しようとする試みはすべて燃え尽きてしまいます。

真の栄光を手にするために必要なことがひとつあります。邪魔立てをしようとする人たちの意

見に忍耐強く耳を傾け、高潔さを保ち続けることがそうです。まさしく本分以外のものを賞賛したり、望んだり、追求したりしてはならないのだと心底納得すれば、時間とか人とか偶発的な出来事の力をもってしても、自らの真価を減ずることにはなりません。大勢の人たちからの称賛を顧みず、本分そのものを享受できる者だけが偉人になれるのです。実際には、これは至難の業ですが、栄えある精神を鼓舞して、到達可能な最高度の人間性を獲得すべきです。成功の喜びとか称賛とか喝采といったものは、誰しも心地よいものです。でも、自らの考えで彼らと同席できる場合は別ですが、周りの人たちが褒め称えている言葉を耳にするよりは、自分で自分を称えるほうが喜びは強くなります。このように平静でむらのない心は、けちな賞賛者とか追従者からは見放されるかもしれませんが、真に理解できる人たちからはいつまでも崇敬されることになります。樅の木は秋には葉を落としますが、枝は一年を通して持ちこたえます。落ちた葉も春が来ればまた蘇るのです。

第173号 1711年9月18日(火曜日)

【アディソン】

どうかあなたのその怖ろしいものを納めてください。

メドゥサがどんなものか知りませんが、あらゆるものを

石にかえてしまうその首はしまってください。(オウィディウス)¹⁾

ある賢明な著者がわが国の職人たちのためにすぐれた仕事をした人を表彰してはどうかと考えておられる旨、さらにその賞が製造業の向上に及ぼす影響について、過日の紙面において言及しました。²⁾その後、今月11日および15日の『ポスト・ボーイ』紙につきのような広告が掲載されているのを見て、大いに驚いています。

来る10月9日、ウォリックシャー、コールズヒル・ヒースにて、雌馬、去勢馬を問わず、これまで5ポンド以上の賞金を獲得したことのない馬すべてに参加資格のある「6ギニー杯」3回戦を開催。10ストーンの荷物を14ハンド持ち上げた優勝馬には10ポンドの買値を保証。参加馬の登録は、10月5日金曜日午後6時まで、コールズヒル、スワンにて。あわせて、賞金は些少だが、ロバによるレースも開催。さらに、同日は百面相大会も開催、優勝者には金の指輪を授与する。³⁾

おそらく、第一の催しの10ポンド・レースは有益と思われるですが、ロバと人が関わるあとの二つは、私にはどう見ても風変わりで、奇妙な催しとしか思えません。ロバを走らせたり、百面相

1) オウィディウス『変身物語』5.216-17.

2) 第161号参照。

3) 15日の広告では、開催日は10月9日ではなく、12日金曜日になっている。コールズヒルはウォリックシャー北西部にある市場町。馬の首輪をつけてひどい顔つきをしてみせる「百面相」は、地方の娯楽のひとつであった。

をさせたりするのが、ほかの場所ではなく、よりによってコールズヒルでありウォリックシャーである理由が、私にはどうしても理解できません。これまでのオリンピックを調べてみても、ロバのレースとか百面相のような大会は見当たりません。それはともかく、現在、10月9日に備えて、ロバ数頭がボディースーツに身を包んで毎朝ヒースで汗を流しており、スワンから10マイル圏内の連中が毎朝1、2時間鏡とにらめっこしているとの情報が私の耳に届いています。庶民は百面相の賞品を目指して必死になっていますので、少し頭が回転する多くの人々はこの地方の人々の顔が台無しになるのではないかと、そして、ローマ・カトリック教徒たちがケントの人々には尻尾があると想像したように、ウォリックシャーの人々は、百面相で知られることになるのではないかと危惧している始末です。⁴⁾ 奇怪な顔つきをした者に与えられる金の指輪は、まさにその昔美しい者に与えられた「黄金のリング」の裏返しなのです。したがって、指輪に刻印される銘にしても、黄金のリングの場合をもじって「醜い方へ」とすべきです。⁵⁾ さらに、銘には、参加者の能力を称えて「二目と見られない顔つきをした者が勝者」と付記すべきです。⁶⁾

一方、私としましては、オランダの画家には是非この素晴らしい大会に参加していただき、繰り広げられる奇妙奇天烈な顔つきを描いて欲しいものと思います。⁷⁾

ここで、最近ある紳士から聞いた百面相に関する話を無視するわけにはいきません。この紳士は、前述の広告を目にしたとき、コーヒーハウスで周りの人たちにつぎのような話をしたのです。ナミュール獲得のとき、これを祝して、ホウィッグ派のある治安判事から、際立った百面相をした者に金の指輪が授けられることになりました。⁸⁾ 最初の挑戦者は、たまたまその場に居合わせ、生来顔はしわくちゃで目鼻立ちも異形の肌の浅黒いフランス人でした。誰もが、この人物が勝利を収めるものと考えました。彼は衆目の集まるテーブルに陣取り、ミルトンの描く死神のように「歯をむき出して凄惨な笑みをもらし」一同を見回すのでした。⁹⁾ 彼の顔の筋肉は引きつれていましたので、にやっとするだけで歯が20本見えるほどでした。周りの人々は栄誉が外人にさらわれてしまうのではないかと心配しました。だが、さらに試みていますと、彼には「陽気な笑み」し

4) ケントの人たちは、トマス・ア・ベケットを殺害した罰として「長い尻尾」をつけられたという言い伝えがあった。ランバード『ケント踏査報告書』(1576年編) およびロバート・プロット『スタッフォードシャー自然誌』(1686年) 参照。

5) 「一番美しい方へ」という言葉は、いわゆるパリスの審判で名高いヴィーナスに与えられた黄金のリングに付いていた銘。

6) 後の第5代オルレリ伯ボイル卿は、1728年7月29日付ソーケルド氏宛の手紙で、エミリア王女について「王女が笑うと、我々は全員、かつての二目と見られない顔つきをした者が勝者という言い回しを思い出して、ニヤッと笑うのです」と記している。(コーク伯爵夫人、オルレリ編『オルレリ書簡集』(1903) 第1巻81)

7) オランダの画家については第83号でも触れている。

8) ウィリアム三世は、1695年8月、64日間に渡る攻囲戦を経て、フランス軍ヴォーバンの固めるナミュールを陥落させた。

9) ミルトン『失樂園』第2巻846行。

かできないことが判明したのです。

つぎに登場したのは往時の不満居士で、あらゆる表情が巧みで、特に得意とするのは「怒った表情」でした。怒りの表情は非常に優れており、流産させた女性は、6人はくだらないとのことでした。だが、傍らの人物からあの男はジャコバイトだと知らされた治安判事は、不満分子に金の指輪を与えて、百面相チャンピオンとするのは本意ではないと考えて、テーブルを離れるときに宣誓をするようにと申し渡しました。すると、この男は宣誓を拒否しましたので、無資格者として除外されることになりました。そのほかにも異形の人物が数名登壇しましたが、あまりにも単調で語るに足るほどの人物はいませんでした。しかしながら、ある農夫のことだけは触れないわけにはいきません。どこか辺鄙なところで暮らしているこの農夫は、非常に幸運なことに下あごが突き出た細長い顔の持ち主で、顔を少しゆがめるだけでぞっとするような表情を作り出すことが出来ました。全員、非常に複雑怪奇な彼の表情に驚嘆し、優勝は間違いないものと思われました。ところが、出場者の一人から、彼は数日前からベル果汁で訓練をつんでおり、表情を作るその瞬間にはケジラミを放っていたのだということが暴露されました。¹⁰⁾そこで、審査員たちは審議の結果、彼を公正な出場者と見なすことはできないと断定し、この農夫は「いかさま」として除外されました。

最終的には、ジャイルズ・ゴーゴンという名の靴屋が金の指輪を獲得したようです。彼は自らあみ出した新手の作り顔をして見せました。長年にわたって靴型を作りながら、自分の顔をゆがめることも会得したのです。最初の試技で、彼は人間の表情をことごとくなくして見せました。二度目には雨どいの顔、三度目にはヒヒ、四度目にはベースヴィオル、五度目にはクルミ割りを披露しました。全員、彼の芸に驚異の目を見張り、指輪は満場一致で彼の手に渡りました。だが、とりわけ靴屋が喜んだことは、これまで5年以上も言い寄っていたが不調に終わっていた娘さんが、彼の作り顔と彼が浴びる賞賛の言葉にいたく魅了されて、翌週彼と結婚することになったことでした。そういうわけで、靴屋は金の指輪を結婚指輪として利用したため、この指輪は今日のこの日までこの娘さんの指に納まっている次第なのです。

おそらく、本日の紙面は真面目な結びにしないと非常に無礼なものになるかも知れません。でも、「ゆかしい人の面影」¹¹⁾をこんな風に扱い、私たちの顔に刻印されている非常に貴い面影を猿の面影に変えてしまうことに対しては、多少なりとも人間への侮辱の罪があるかどうかの判断は、この奇怪な腕比べを奨励なさっておられる方々にお任せいたします。だが、私には、こういった無益な技に賞品を出して無知無学な人たちを愚かな競争に掻き立て、庶民に無分別な功名心を注ぎ込み、馬鹿馬鹿しい優越感を吹き込むのは、どう考えても道徳に反することであり、同時に、馬鹿げたことであると思えないのです。¹²⁾

10) ベル果汁 (Verjuice) は未熟なブドウやヤマリンゴから採った酸っぱい果汁のこと。気性、表情、態度などの気難しさ、とげとげしさなどの意味にも用いる。

11) ミルトン『失楽園』第3巻44行。

第174号 1711年9月19日（水曜日）

【スティール】

負かされたバックス酒神の杖が無益な争いをしたときには
私はつぎの詩歌を思い出すようにとすすめた。(ウェルギリウス)¹⁾

当事者間で折り合いをつけない限り、共存することができないにもかかわらず、互いに敵意をもってしまうということがよくあります。このことは古代ローマの寓話に登場する「体の器官による反乱」に巧みに描かれています。²⁾これはしばしば同盟を結んで強国に立ち向かう弱小国の場合にもあてはまります。弱小国共通の安全を守るには互いの合意が不可欠なのですが、弱小国同士がばらばらにならずに最後まで団結し続けることはほとんどありません。また、往々にして、これはわが国の地主階級と商人階級の関係にもあてはまります。商人は土地の産物によって食べており、地主は商人の技がなければ衣服を身に着けることはできません。それなのに両者はたえず衝突しているのです。

この実例に関しては、昨年の冬、クラブで体験しました。サー・ロジャー・ド・カヴァリとサー・アンドリュー・フリーポートの関係がそうなのです。二人は仲がよいのですが、いつも両者の意見は食い違うのです。たまたま歴史の話題に及んだとき、ある人が「カルタゴ人の約束」という言い回しは「盟約の破棄」ということなのだと語りました。³⁾サー・ロジャーはその通りだと口にしました。つまり、サー・ロジャーの言い分はつぎの通りでした。カルタゴ人は世界で最も優れた商人だ。彼らの主目的はとにかくにも金儲けであり、それ以外には目もくれない。彼らは金儲けのためには手段は問わず、楽に金儲けができるときには正直な手段に訴えるが、そうでない場合には、かたりや詐欺に訴えることにためらいを覚えない。実際、彼らは自分たちを信頼している人に一杯食わせることをなんとも思っていないのだ。収支の帳尻あわせと儉約に執心している連中に、崇高で気高い点を期待するのはどだいなものねだりなのだ。商人の美德は、せいぜい儉約とか節約だけであって、商人特有の几帳面な取引というものは、紳士が見せる貧しい人々への慈善とか、隣人同士での手厚いもてなしにははるかに及ばないのだ。

12) 1711年10月13日付、ウォリックシャー、コールズヒルのジョナサン・レギュラーからの手紙によると、この記事によって「百面相」は取り止めになったということである（リリー、第2巻72から73行）。また、1712年9月6日のポスト・ボーイ紙によると、翌年にはロバのレースと百面相は削除されたということである。

1) ウェルギリウス『エクロガエ（詩選）』7.69.

2) 身体の各器官の相互依存にかかわる寓話は、デフォーも1711年5月1日付『レビュー』の商人階級と地主階級に関する記事の中でこれを引いている。

3) いわゆる3回にわたるポエニ戦争を戦ったローマは、カルタゴに対していいイメージを抱かなかった。そのため、「カルタゴ人の約束」は「ごまかし」つまり「あてにならない約束」ということになり、英語でも「カルタゴ人の（Punic）」という語は「信義のない、裏切りの」という意味を持つようになった。

セントリー大尉は、サー・アンドリューが非常に真剣にサー・ロジャーの発言に耳を傾けているのに気づきました。そこで、彼は話題を変えたいと考えてつぎのように発言しました。人間社会では一般的に上から下まで、不正なやり方ではあるが、自分と他人の生活状態を比較して、他人が自分の享受している幸福に近づくのを嫌がったりするものです。そうすることでいつの間にか悪意とねたみの種をまいているのです。つまり、自分はあまり安楽な生活をしていないと思っている人は、自分よりも有利な立場にいとを考えている人のことをこぼします。このように、文人も武人もとてもひねくれた気持ちで相手を見ることになります。軍人は廷臣の権力をこぼしますし、廷臣は軍人の名誉に茶々を入れます。また、もっと下位のものになって、騎兵隊および歩兵隊の兵卒と街中を走り回っている荷馬車および乗合馬車の御者の場合にも、それぞれ宿や道のことで競うときには、互いを見る目には悪意が走ります。

大尉さん、分かりました、とサー・アンドリューが口を差し挟みました。あなたは話題を変えようとなさっておられ、そうするのが相応しいと考えていらっしゃるようですが、私としてはサー・ロジャーに一言二言申し上げておかなくてはなりません。なるほど、サー・ロジャーは、商人に対してとても厳しい見方をされ、私に仕返しをなさったとされています。ここで、王政復古以降、商人たちが打ち立ててきた慈善と公共精神のあの素晴らしい記念碑的仕事のことをサー・ロジャーに思い出して欲しいとは言いませんが、私は現在、サー・ロジャーのおっしゃる「儉約と節約」に満足しているのです、と彼は続けました。財産管理をするために、数字を使って出納簿をきちんとつけることが、サー・ロジャーほどの由緒ある准男爵にとって矛盾した行為でないとすれば、彼の言う好意よりは私たちの儉約の方が好ましいのです。大酒を飲むことが手厚いもてなしということになるのであれば、私たちはそんな美德を持っているとの評判は欲しくはありません。私の指名で丸10日間仕事にありつく職人と、サー・ロジャーの振舞いで浮かれ騒ぐ農夫と、どちらがありがたく思っているか考えてみる価値があります。感謝する家族の数を比べれば、サー・ロジャーの農夫の場合よりも、私の職人の方が多いと思います。サー・ロジャーは店子たちに気前よく振舞いますが、私は職人たちに恩義を施しはしません。ローマの人々のカルタゴの商人に関する語り草については、私は少しも痛痒を感じていません。なぜなら、カルタゴはローマにとって公然とした敵だったからです。カルタゴ人による歴史が伝わっていないのを残念に思います。もしこれが可能であったら、他国の財産を求めて戦ったり授けたりするときのローマ人の寛大さについては、これまでに流布しているものとは違った語り草が伝わっていたに違いありません。ところで、サー・ロジャーは古代のことわざを引き合いにして、商人への反感を述べていますので、私が商人を擁護するために、比較的最近のものを紹介しても大丈夫でしょう。オランダである人物が破産する羽目になると、かの地の人々はきちんとした出納簿をつけていなかったからだと言います。この言い回しは、わが国ではおそらくどちらかといえばおどけた言い方に響きますが、かの国ではこの言い方にはこのうえなく非難の趣があるのです。といいますのは、かの国では、出費の計算を間違えたり、将来の出費に対応できないとか、見当違いにもかかわら

ず、血氣盛んに大きな投機をしたりすることは、もっと陽気な国々における勇氣とか当たり前の誠実さが欠けているのと同じくらいに、汚名を被せられることになるからです。

価値評価の可能なものの場合、どんなものでも数字が重要な尺度となりますので、活動の成否あるいは事業の見通しを具体的に示すとなれば数字なくしては不可能です。これは、現金出納簿に夢中になっており、収支の帳尻あわせをしている連中には何一つ気高いことを期待できないとおっしゃるサー・ロジャーへの私からの反論なのです。私は外国との貿易から収益があがるときには、事業による損益の数字によって1シリング1ペニーまで正確に計算できます。同時に、収益をあげるにはそれなりの理由があるのです。つまり、私は、私自身および人々の経験、ならびに、出費と危険に見合うだけの収益があがるかどうかというもっともな推定に基づいて、それなりの根拠を持って臨むのです。このためには、数字の力は不可欠です。たとえば、トルコと取引をすることになった場合には、当然のことですが、あらかじめ、わが国における絹の需要についてはもちろん、わが国の製品のトルコでの需要を知っておかなくてはなりません。積み込んだ船荷の代価、往復の運賃ならびに保険料、女王への貢租、金利などの出費をカバーすると同時に、それ相当の儲けを見込んだ十分な収益を想定するためには、あらかじめ、以上の事柄を明確にしておかなくてはなりません。このことに少しでも不正な行為があるでしょうか。商人のやることとサー・ロジャーの好意との間に違いはないはずです。商人は他人の囲い地を荒らすこともなく、他人の穀物を踏みじめることもありません。商人は勤勉な労働者から搾取することはなく、貧しい人には、労働の代価を支給します。商人は人々と利益を分かち合います。商人は船荷の準備をし、収益を生み出すことによって、多くの人々に雇用つまり生計を立てて行く手段を提供します。そのお陰で仕事にありついている人々の数は、最も豊かな貴族の場合よりも多いのです。貴族たちでさえ、自分たちの地所からあがる農産物にとって外国市場があること、そしてそのことが地代をあげることに一役買っていることに対しては、商人のお陰をこうむっているのです。でも、こういったことはすべて数字の力を借りなければ不可能なのです。

以上が商人の考えている経済観念なのです。紳士の身の処し方も、自身が執事になるのを潔しとせず、つまり、執事が紳士になってもいいと考えているのでない限り、商人に倣うべきです。紳士にしても商人にしても、なんらかの活動の成否とか事業の見通しを立てるためには、数字の助けを借りなければなりません。たとえば、狩猟をすれば、それから得られる唯一の報酬となると、大広間に飾る雄鹿の角であり、厩舎のドアに飾るキツネの首であるに違いありません。きっとサー・ロジャーはこういった報酬の価値は十二分にご存知でしょう。事前に狩猟にかかる諸費用を計算していたとすれば、思慮深い紳士だと犬はすべてつなぎとめていたでしょうし、立派な馬をあれほど沢山犬舎に連れ出したり、突風のごとく小麦畑を駆け抜けたりするようなことはしなかったでしょう。もし先祖代々こういった振舞いをしてきていれば、由緒ある自分たちの家系は今日まで商業の毒氣に当てられたためしはないと自慢していたことでしょう。つまり、商人はその資力をもってしてもカヴァリ家の画廊を買い取って自分の肖像を飾り、自分の先祖は女

官だったのだと主張することはなかったのです。だが、商人が自らの功名心にあれほどの代価を払ったのは、サー・ロジャーにしてみれば大変喜ばしいことなのです。幾多の紳士が自分たちよりも計算に明るい新しい主人に先祖の地位を明け渡すのは不幸なことです。だが、財産というものは、怠慢によってそれを失う人よりも、勤勉によってそれを獲得する人にこそ与えられてしかるべきものなのです。⁴⁾

第175号 1711年9月20日(木曜日)

【バジエル】

類焼は免れにくい。(オウィディウス)¹⁾

本日の紙面では、読者からの手紙を二、三通紹介したいと思います。最初の手紙からは、これまで私が気づかなかった女性の一面が伺えるように思えます。

拝啓

私は資産もあり学問が好きですので、毎日5、6時間は読書を楽しみながら愉快地過ごしている若い紳士です。そこで私は、馬車や駕籠かきの騒音から逃れて、勉強に専念するために、ホワイト・ホールのそばの狭い路地裏に住まいを構えています。だが、非常に不運なことに、私の住まいの真向かいはいゼベルの住まいになっているのです。²⁾窓辺で見せる彼女の邪まな魅力が原因で近所の人たちからいゼベルと呼ばれているこの女性は、いつも着飾って窓辺に姿を見せ、近隣の怠惰な若者たちの関心を引くために、あれこれと軽挙や愚挙を弄します。私が苦情を述べているこのいゼベルについては、一度に6名を超える人々がそれぞれの窓から彼女を観察しているのを目撃したことがあります。私自身、最初は非常に軽蔑の面持ちで彼女に目をやり、彼女の素振りをめぐる半時は気晴らしをして、その後、とても落ち着いた心持でプルタルコスに向かうことができました。だが、1ヶ月も経たないうちに、彼女のことで随分時間がとられていることに気づいて少し苛立ちを覚え、今後彼女には目を向けないことにしました。しかし、私の想像によれば、どうやら見てくれる人の数が減ることを面目の失墜と考えているいゼベルは、私を手離すまいと考えて、新手の振舞いをあれこれと披露し始めたのです。そのため、私は彼女から目を離すことができなくなってしまいました。彼女が蠟人形の赤ん坊を購入したのは、まさしく私を苦しめるためだったのだと思います。ひどいことに、彼女はいつも、この人形を抱いて、まるで本物の赤

4) 第109号参照。サー・アンドリュー・フリーボートの商人階級擁護はスティールの『自意識過剰な恋人たち』に登場するシーランドの立場に似ている。

1) オウィディウス『愛の療法』625。

2) いゼベルは旧約聖書『列王紀』に登場するイスラエル王アハブの放埒な妃。英語では jezebel は普通名詞に転じて「毒婦、策動的な女」の意味で用いられる。

ん坊のように、あやし、戯れるのです。またあるときには、手袋とか針山を道路に落したり、開き窓を1分間に3度も4度も開けたり締めたりするのです。私が目を離そうとすると、シュミーズ姿で現れ、窓辺で身づくろいをするのです。私としてはカーテンを引くしかありませんでした。カーテンを引けば室内は暗くなりますが、やっと切り抜けることができたと考えて、その状態を甘受するしかありませんでした。でも、翌朝、彼女が私の部屋の上に住んでいる女性と通りを隔てて窓越しに話をしているのを耳にして驚きました。私がカーテンを引いて3時間もしないうちに、彼女がその女性の部屋を訪ね、彼女と知り合いになったということです。

そういうわけで、私は部屋に閉じこもっているのですが、片時も気持ちが悪くなることはありません。イゼベルは、私が見つめてはいないが、階上で交わされている不躰な会話に聞き耳を立てているのを知って満足しているのです。私としては、すぐにでも部屋替えをしたいと考えていますが、そうすれば、攻略されたことを告白することになってしまうのではないかと危惧しているのです。それに、街はどこもこの手の女性が横行しているということです。もしそうであれば、これは貴殿のような学問を愛し、沈黙を愛する人が寸評を加えてしかるべき悪習だと私は確信する次第です。

敬具

この手紙のくぐりから判断しますと、どうやらこの若き学徒は自分では夢にも思っていない病に罹っており、もはや助言を聞き入れる耳は持っていないように思われます。とはいえ、私自身もテンプル法学院の近くで、若き法学者たちの目を引き、運悪く窓の下の側溝につまずく彼らの姿を見るのを気晴らしにしているイゼベルたちの巢窟を発見しましたので、この若者が言う悪習については、いずれ批判したいと考えています。

拝啓

最近、「あざけりの標的」に関する第47号の結びをととても楽しく拝読しました。それ以来、私は会話に活気を添えるためにどうしても欠かせない紳士諸氏の見せる「あざけりの標的」にいたく納得しています。先週、私は求婚している女性に、双方の友人数名を交えて、水上パーティーを催しました。私は、一同を楽しませるために、とりわけ恋人に、私にからかいの才があるのを見せようとして、ロンドンでも名高い「あざけりの標的」である人物を同行しました。貴殿にこの冒険の結末をお伝えしようとするすると、どうしても恥辱と困惑がつきまといまいます。船に乗り込むとすぐに、私は「標的」に向かって、自分で当意即妙と考える言葉を一言二言投げ掛けました。心からそう思うのですが、私の意地悪い才能が純粋に彼の敵愾心を掻きたて、彼に笑いを独占するような返事を思いつかせてしまったのです。私はまったく予期していなかった展開に愕然としました。そのことに気づき、私を立ち直らせまいと考え、勝利を追求するこの「標的」は、チェルシーに着くまで終始このうえなく無慈悲にかつ残忍に私をからかい続けたのです。それでもチ

ーズケーキを食べているときには、私にも少し風向きがよくなりましたが、家に帰ってくると、彼は再びそれまでの好運に乗じて私への攻撃を開始し、一同を大いに楽しませたのでした。要するに、率直に認めなくてはなりません、私はこれまでこんな扱いを受けたことはなかったのです。そのうえ、私の不幸の仕上げとして、その後、先日の勝利に意気揚々としているこの「標的」氏が、私が愛する女性のもとを一、二度訪れているということなのです。そのため、私は機知への自負心だけでなく、恋人まで失ってしまう危険にさらされています。以上が、現在私が抱えている悩みの種です。これは、貴殿ご自身が「楽器」をお勧めになって、その扱い方を教示なさっておられませんので、その責任の大半は貴殿にあると思われます。したがって、何らかのお力添えをお願いしたいと思います。

小生としましては、「標的」には全員、身体のどこかにどこを攻撃すればよいかを示す刻印を押しておいたら好都合なのではないかと考えているところです。さらに、気分にもうらのある人物の場合には、いつ攻撃すればよいか、いつは手を出すべきでないかを知らせるなんらかの方策を講ずるべきだと考えています。以上の件は、貴殿の真剣な考察に委ねたいと思いますので、何卒よろしく願いいたします。

敬具

実のところ、私も、この寄稿者と同じような不幸に見舞われている若き紳士諸氏のことを目撃したり、耳にしたりしたことがあります。こういった紳士諸氏が今後同様の災難を受けないようにするために、私に断言できる最善の法則としては、相手の弱点だけでなく、同時に、相手が才人であるかどうかをきちんと見分けることをあげたいと思います。

つぎの手紙はエクセターから届いたものですが、内容もしっかりしており、確かな筋からのものと思いますので、そっくりそのまま掲載したいと考えます。

9月7日エクセターにて

拝啓

貴殿は先だっでの思索において、わが国の人たちが遭遇しています流行と歩調を合わすことのできない不都合さについて述べておられました。³⁾だが、これまで貴殿の観察を免れていますが、私たちが受けている不幸として、前者に劣らず嘆かわしい不幸がもうひとつあります。つまり、私の言いたいことは、聞いたこともないようなものがロンドンの流行として地方にいる私たちの元に伝わってくることなのです。

しばらく前に、当地のある婦人が最新のリボンを1箱馬車で取り寄せたのです。このリボンは彼女自身が意地悪く考え出したものか、ロンドンのある婦人帽製造人の気まぐれによるものなのかは、小生には判断しかねます。驚くことに、この箱の中には、小さな頭飾り状に編みこまれた

3) 第119号参照。

およそ6ヤードものさくらんぼ色のリボンが入っていたのです。箱を開けるとときには周りに女性たちが居合わせたのですが、興味津々の女性たちを前にして、厚かましくもこの婦人は宮廷ではこれが最近流行しているのだと断言したのです。そういうわけで、つぎの日曜日には、何名もの女性が頭全体をリボンで飾り立て、まるで、生け簀に供される人身御供のような格好をして教会に姿を見せたのです。当地では、このリボンが依然として羽振りをきかせています。これと同時に、ロンドンから入る最新情報には何一つ触れられていないのですが、当地には、コートにボタンではなく小さな銀の止め金をつけて、人前に出て来る紳士たちがいるのです。どうやらボタン製造業者たちに第二の嘆願書を提出させる原因を提供しているのではないかと思います。⁴⁾

恐れ多いことですが、小生がみなさんに提案したいことは、ロンドンに男女両性の判断力に優れた人たちを委員にした「流行検閲協会」といったものを創設していただきたいということなのです。要するに、どの地方でも、また、いかなる人物にも、上記の協会からロンドンの流行に相応しい服装であるとの証明書が発行されていない奇妙な格好をさせないで欲しいということなのです。そうすれば、私たちは自分たちの居場所について少しは認識すると思います。

貴殿によってこの件に注意を喚起していただけますと、地方にいる貴殿の友人諸氏は大いに感謝するに違いありません。

敬具

流行が気にかかる男より

4) 1709年／10年1月21日、ロンドンの絹職人、より糸工、染物師、糸巻き工たちから、生糸とモヘア糸の消費を促進し、ボタンおよびボタンホール製造の規制を求める嘆願書が議会に提出された（下院議事録16.271）。この法案は正式に議会を通過し、2月27日国王の裁可を得た（下院議事録16.289, 340）。